

令和4年度平塚市子ども・子育て会議  
第3回全体会議 会議録

日時：令和5年3月16日（木）午後2時～午後3時40分  
場所：平塚市青少年会館 2階 集会室

1 議題

(1) 令和4年度子ども・子育て支援事業計画の点検・評価

資料「令和4年度取組状況評価（暫定版）～基本事業（市の取組）～」に基づき、事務局から説明した。

各事業の令和4年度の取組状況について、担当課にて自己評価を行った。A「成果があがった」と評価したのは146事業、B「おおむね成果があがった」と評価したのは36事業、C「十分に成果があがらなかった」と評価したのは2事業だった。また、年度途中のため現時点では評価できない「評価なし」とした事業は、年度末の実績確定後に評価をする。事業評価については、令和3年度の暫定版と比べるとA評価の事業が増加しており、新型コロナウイルス感染症への対策を行いながらも成果があがった事業が多くなった。

続いて、各事業を基本目標に沿って、委員から事前に提出された意見を中心に説明を行った。

【質疑応答は次のとおり】

会 長：基本事業1（3）6「保育所のボランティアの受入れ」について、検証結果の理由を説明して欲しいとの意見に対し、担当課からは、実施した事業の中身から評価をしたとの回答があった。数値で表せるものではないので記載がされてないと推測するが、理由の記載がないため評価の根拠がないように見えてしまう。これからは、取組の内容についても書き加えていただくと誤解が少ないのではないかと。

事務局：事業によっては取組内容の説明が少ない箇所もあるため、分かりやすく取組の状況が示せるよう努めたい。

委 員：基本事業5（1）①2「妊産婦の相談の充実」について、取組に記載されているのは、妊婦に関するものになっており、産婦への取組について記載が見当たらない。委員からの意見でも、生まれた後のお子さんに関することが多いかなと感じたので、妊婦だけではなくて、産婦への取組についても記載していただけたらと思う。

事務局：御指摘のとおり産婦に対する取組が記載されていなかった。令和5年2月から伴走型支援として、寄り添った相談支援の充実を進めるので、このような産婦への取組についても記載したい。

続いて、資料「令和3年度取組状況評価（暫定版）～教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策～」に基づき、事務局から各事業における実績値（評価値）について説明を行った。

確保の方策である提供量の確保については、計画に沿って、施設の整備、保育士の確保等に取り組む。保育士の確保については、保育所で働く魅力を市ホームページで積極的に発信するため、特設サイトを作成し年度内のオープンに向けて準備を進めている。

続いて、地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保の方策について説明を行った。地域子育て拠点支援事業は、新型コロナウイルス感染症の影響で定員を設けて運営している。来年度については、各広場と協議を行った結果、若干定員を増やし運営をする予定である。

#### 【質疑応答は次のとおり】

会 長：全体的に提供量については、潤沢になっているという理解でよろしいか。

事務局：提供量については、計画に沿って施設整備を進めており、少子化の影響もあることから充たされていく傾向にあると考えている。

会 長：地域子育て拠点支援事業については、新型コロナウイルス感染症の影響で定員を設けて運営していたが、徐々に規制もゆるやかになる中で、平時に戻りつつあるという理解でよろしいか。

事務局：キャンセル待ちや利用をお断りする場合もでてきている。新型コロナウイルス感染症の影響で定員制を設けていることが原因ではあるが、それを緩和することで利用の要望に応えることができると考えている。

会 長：議題（1）については、実績が確定した後、改めて取りまとめを行い公表する。内容について、了承とする。

#### （2）特定教育・保育施設にかかる利用定員

本議事について、資料2-1「子ども・子育て支援新制度における施設の利用定員について」及び資料2-2「新規に利用定員を定める施設」に基づき、事務局から説明した。

#### 【質疑応答なし】

会 長：議題（2）について、了承とする。

#### （3）子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直し

子ども・子育て支援事業計画の中間年見直し版の策定について報告した。中間年見直し版については、令和4年11月に開催した第2回子ども・子育て会議の後、県との法

定協議を終え、令和5年3月1日に市ホームページに公表した。また、市内の公民館などの公共施設や、保育課の窓口にも閲覧用の冊子を配架している。

【質疑応答なし】

(4) その他

事務局から情報提供を行った。

ア (仮称) 土沢認定こども園の整備 (保育課)

議題(1)の意見にもあった、(仮称)土沢認定こども園の整備については、令和4年9月から10月末にかけて整備事業者の募集を行ったが、応募がなかった。

この結果を受けて、現在、庁内関係部署で今後の整備方法について検討中である。検討結果がまとまり次第、子ども・子育て会議にて報告をする予定である。

イ 子ども・子育て会議委員の募集 (保育課)

令和5年5月末で、委員の任期が満了となるため、現在、公募委員の募集を行っている。知り合い等で興味がある方がいらしたら御案内いただきたい。

ウ 病児・病後児保育施設の整備 (保育課)

平塚市には駅の南側に「麦・もんもん病児保育室」、北側に「平塚保育園病後児保育室「なでしこ」」があるが、どちらも駅周辺に位置していることから、利用者の利便性を考え、市の北西部に新たに病児・病後児保育施設を整備する予定である。

令和5年度中に整備を始め、令和6年度中に開設をする予定である。既存の施設は、社会福祉法人が主体となっているが、新たに設置する施設は、医療法人が主体となる。

エ 平塚市青少年海外派遣 (青少年課)

平塚市青少年海外派遣事業を、4年ぶりに開催する。本事業は、国際化にふさわしい広い視野を持った人材の育成を目標とし、姉妹都市であるアメリカ合衆国カンザス州ローレンス市に中学生、高校生を派遣するものである。令和5年4月3日から令和5年4月12日まで募集を行うため、知り合いの方で興味のある方がいらしたら御案内いただきたい。

オ 出産・子育て応援交付金事業 (健康課)

令和5年2月から国の対策の一つとして、「出産・子育て応援交付金」を活用して、妊娠時に5万円、出産時に5万円を支給する事業を開始した。本市の取組は、厚生労働省が作成する本事業の好事例集に取り上げられた。その理由の一つが、子育て世代包括支援センターである「ネウボラルーム」の取組である。全国でもあま

りない事例として、本市のネウボラでは、管理栄養士を配置し、栄養指導を行っている。また、葉酸を採ることで胎児の障がいを予防する効果があるとされていることから、葉酸アプリを配布している。また、交付金は、子育てに関することに利用いただき、地方活性化にも繋げていきたいという考えから、スターライトマネー（電子商品券）での支給も選べるように担当課と調整した。スターライトマネーを選んでもいただいた方にはインセンティブが付く。

カ 産後のメンタル不調に対する備え（健康課）

最近、産後うつが問題となっており、産後3ヶ月以内に10人に1人の母親が、産後うつになっているという現状がある。そういった中で、直接面談等をするものの他に、母親のセルフケアを後押しできないかと考え、令和5年1月から妊産婦にメンタル不調のリスクを軽減できるようなアプリの提供を無償で始めた。

キ baby&kids 健康カレンダー（健康課）

コロナ以降、開催回数を減らしたり、実施できなかった教室等があったが、令和5年度は、全て実施をする。配布した資料には、産後ケア事業の記載がないが、ホームページ等で紹介させていただきたい。

会長：市の取組が国の考え方と合致し、好事例として評価された。皆で考えた結果がこのように評価されたことは非常にうれしいことだと思う。これから先も様々なことがあると思うが、前向きに捉え協力して取り組んでいきたい。

出席者：落合会長、長岡副会長、金田委員、中村委員、金子委員、白川委員、山田委員、梅本委員、古川委員、三宅委員、横山委員、長嶋委員、島袋委員

傍聴者：1人

事務局：健康・こども部長、保育課長、こども家庭課長、健康課長、学務課長、青少年課2人、教育総務課1人、教育指導課1人、社会教育課1人、保育課5人

以上